

JOMF 派遣医師便り (2013. 5)

◆ジャカルタ◆

鳥インフルエンザ A(N7H9)

JJC 医療相談室

原 稔

鳥インフルエンザ A(H7N9)のヒトへの感染が伝えられ、いろんな場面で話題に上ります。それに関する講習会の依頼もありました。H5N1 の経験からか、全体に、落ち着いた対応をされている企業・個人が多いという印象を受けます。その一方、全く無頓着な方もいらっしゃいます。

H5N1 はインドネシアで発生していることもあり、2005 年当時、ジャカルタの日本人社会は大騒ぎになったと聞きます。パンデミックに備え、事業継続計画を見直し、水・食料・燃料の備蓄、抗インフルエンザ薬の確保に、多くの方が努めたはずです。

その後、幸いにもパンデミックを引き起こすことはなく、現在に至っている訳ですが、決してその危険性が無くなった訳ではありません。パンデミックが起こるのは時間の問題だ、という状況が何年も続いています。大地震と同じです。いつの間にか感覚が麻痺して、その怖さを忘れかけてはいないでしょうか。今回の H7N9 の発生は、対策を考え直すよい機会です。

実際にパンデミックが起こったならば、対応するワクチンの製造には半年以上かかります。また、すべての亜型のインフルエンザに対応できる、万能型のワクチンは現時点ではありません。

知識のワクチンという言葉があります。幸い、ネットで検索すれば、インフルエンザの情報は手に入ります。耳を大きくして情報に注意し、冷静に怖がるというのが、インフルエンザとの正しい付き合い方だと思います。

さらに、インフルエンザとは違いますが、SARS に類似の新型コロナウイルスがアラビア半島を中心に発生しており、一部でヒト-ヒト感染が確認されています。これに関しては気にしていない（知らない）人が多いと感じます。インドネシアはサウジアラビアとの往来が頻繁で、こちらにも要注意です。